参加者募集のご案内

日本科学技術連盟

第54回 信頼性・保全性・安全性シンポジウム（54RMS）

テーマ DXで実現する持続可能な未来

RMS

開催日 2025年7月17日(木)～18日(金)

オンラインLIVE配信
（参加者全員アーカイブ配信つき）

6/20(金) 13:00まで 大口参加

最新情報更新中！Web をご覧ください　http://www.juse.jp/rms/　54rms　検索

7/17(木)　基調講演

設計と運用・保全部門とのコラボによるサステナビリティ実現へ

田中　健次 氏
電気通信大学 産学官連携センター・特任教授
RMSシンポジウム組織委員会委員長

7/17(木)　特別講演

2035年に向けたデンソーの先端技術開発と社会課題への挑戦

伊藤　みほ 氏
株式会社デンソー
執行幹部 先端技術研究所長

7/18(金)

企画セッション（講演・パネルディスカッション）

SiCデバイスのチャレンジとシステムのイノベーションの共創

システム開発者とデバイス開発者の溝をなくし日本がまだまだ誇れるこの分野をAll Japanでの推進をめざし、皆様と共に考えます。

先﨑　純寿 氏
産業技術総合研究所

佐藤　賢司 氏
東海旅客鉄道株式会社

門田　靖 氏
元 株式会社リコー

横川　慎二 氏
電気通信大学

7/17(木)

チュートリアル講演 1

初めて学ぶ信頼性 ―その要点と手法―

島川　邦幸 氏
元 富士ゼロックス株式会社

7/18(金)

チュートリアル講演 2

SiCパワーデバイスの基礎と信頼性

木村　忠正 氏
電気通信大学

7/17(木)午後～7/18(金)

研究報文・事例報告発表

「質・量」共に充実した発表があるのは本シンポジウムならでは。今年も、信頼性・保全性・安全性の技術を高めることに役立つ企業・大学・研究機関から合計22件の発表がそろいました。産・学の実践的な技術や経験、ノウハウ、研究成果や最新事例が一堂に集結しました!

概要

7/17(木)　基調講演、特別講演、前年度RMS優秀報文（事例）賞、奨励報文（発表）賞、技術貢献賞／表彰、チュートリアル講演、研究報文・事例報告発表

7/18(金)　企画セッション、研究報文・事例報告発表、チュートリアル講演

※詳細は中面をご覧ください。

主催：一般財団法人日本科学技術連盟

RMS 第54回 信頼性・保全性・安全性シンポジウム

日程 2025年7月17日(木)～18日(金)　**形式** オンラインLIVE配信

テーマ DXで実現する持続可能な未来

■プログラム(敬称略)

発表時間 持ち時間は1件につき30分(発表20分、質疑応答10分)　**一般発表** 22件(研究報文7件、事例報告15件)　(2025年7月4日現在)

7月17日(木)

会場	A会場　総合司会：久保 秀之　ユーロフィン FQL㈱／RMS シンポジウム副委員長
9:30～ 9:35	【主催者挨拶】一般財団法人日本科学技術連盟 理事　島田 尚徳
9:35～10:20	【基調講演】　設計と運用･保全部門とのコラボによるサステナビリティ実現へ 田中 健次　電気通信大学 産学官連携センター 特任教授／RMSシンポジウム組織委員会委員長
10:20～10:25	準 備・休 憩
10:25～10:45	【表彰式】　2024年度（第53回）RMS優秀報文／事例賞、奨励報文／発表賞、技術貢献賞 表彰式 賞状･副賞の授与:　田中 健次　電気通信大学 産学官連携センター　特任教授／RMSシンポジウム組織委員会委員長 選考理由について: 弓削 哲史　防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授／RMSシンポジウム報文小委員会委員長
10:45～11:00	準 備・休 憩
11:00～12:30	【特別講演】　2035年に向けたデンソーの先端技術開発と社会課題への挑戦 伊藤 みほ　株式会社デンソー 執行幹部／先端技術研究所長 司会: 黒木 英昭　全日本空輸㈱　　モデレーター: 弓削 哲史　防衛大学校
12:30～13:30	昼食休憩

会場	A会場			司会者(補佐)	B会場			司会者(補佐)	C会場
Session	【Session 1】信頼性試験			佐伯 光章 ルネサスエレクトロニクス㈱ (門田)	【Session 3】異常検知と予測			角谷 幹彦 ㈱アイシン (岡田)	【チュートリアルセッション】
13:30～14:00	1-1	【事例報告】事例で示す計量抜取信頼性試験の有効性 松岡 敏成　三菱電機モビリティ㈱			3-1	【事例報告】異常検知モデルの劣化予測手法の開発 福島 航　㈱IHI			【講演1】13:30～14:30 初めて学ぶ信頼性ーその要点と手法ー 島川 邦幸 元 富士ゼロックス㈱ 司会: 長塚 豪己 中央大学
14:00～14:30	1-2	【事例報告】ボゴピンの短寿命化事例紹介 北林 朋希　ユーロフィンFQL㈱			3-2	【事例報告】機械学習を用いた、ECUソフト検査の判定自動化 ～異常検知モデルによる自動判定手法の確立～ 久保 結人　トヨタ自動車㈱			
14:30～15:00	1-3	【事例報告】HALT試験事例紹介 ～HALT試験装置を活用した加熱ヒーターの故障解析～ 福田 貴之　エスペック㈱			3-3	【事例報告】機械学習を用いたボルト締結の軸力／トルク関係の把握 花井 洋志　日産自動車㈱			
15:00～15:15	準 備・休 憩								
Session	【Session 2】故障解析			久保 秀之 ユーロフィンFQL㈱ (宮本)	【Session 4】リスクマネジメント			岡 利春 ㈱IHI (井内)	
15:15～15:45	2-1	【事例報告】THz-TDR(Time Domain Reflectometry 時間領域反射)波形差分を用いた高密度パッケージの故障解析手法 前原 泰秀　ルネサスエレクトロニクス㈱			4-1	【事例報告】リスクアセスメント技法(R-Map、HHA等)を活用したリスクマネジメント 今中 俊行　ダイキン工業㈱			
15:45～16:15	2-2	【研究報文】CAEとL18直交表を用いたMLCCの電歪による基板の変形解析 齋藤 彰　テック･サイトウ			4-2	【事例報告】飛行中の突然の揺れによる負傷リスク低減対策について ～ボウタイ･モデルをベースとしたリスクマネジメント手法～ 中村 壮一　全日本空輸㈱			
16:15～17:00	【ネットワーキング】発表者 × 司会者 × 組織委員交流会（非公開）								

7月18日(金)

会場	A会場			司会者(補佐)	B会場			司会者(補佐)	C会場
Session	【Session 5】信頼性評価手法の改善			藤本 直伸 内藤電誠工業㈱ (久保)	【Session 8】事故報告の活用			黒木 英昭 全日本空輸㈱ (弓削)	【チュートリアルセッション】
9:30～10:00	5-1	【事例報告】有限要素法解析と冷熱サイクル試験によるQFNはんだ接合部の耐熱疲労性改善 中道 徳馬　㈱安川電機			8-1	【研究報文】2タイプの医療事故データベースを活用したインシデント･アクシデント報告書作成支援システムの構築 坂東 幸一　電気通信大学			【講演2】9:30～10:30 SiCパワーデバイスの基礎と信頼性 木村 忠正 電気通信大学 司会: 宮本 秀範 ソニーセミコンダクタソリューションズ㈱
10:00～10:30	5-2	【研究報文】腐食分極曲線の測定ばらつきの改善 石田 雄二　西日本工業大学			8-2	【事例報告】機械故障による船舶事故調査報告書の原因と対策との対比:共起ネットワーク分析を用いて 菊地 和満　㈱海技教育機構			
10:30～10:45	準 備・休 憩								
Session	【Session 6】パワーデバイス			横川 慎二 電気通信大学 (佐伯)	【Session 9】異常検知システム			田村 信幸 法政大学 (田中)	
10:45～11:15	6-1	【事例報告】パワーデバイスのウェハプロセスにおける欠陥密度分布の統計解析 馬場 正太郎　富士電機㈱			9-1	【事例報告】自動組立ラインの予兆システム導入 山﨑 要　㈱アイシン			
11:15～11:45	6-2	【研究報文】SiC MOSFETのAC-BTI試験国際規格差異と留意点の検証 武井 康平　沖エンジニアリング㈱			9-2	【事例報告】工作機械の加工モニタリングによる信頼性･保全性の向上 島田 侑里　コマツNTC㈱			
11:45～12:45	昼食休憩								
Session	【Session 7】標準化と安全性			佐々木 成実 トヨタ自動車㈱ (大田)	【Session 10】未然防止と保全性評価			伊藤 誠 筑波大学 (土井下)	
12:45～13:15	7-1	【研究報文】日本産業界における安全技術向上を目指したSRP/CSの非常停止装置とインターロック設計方法の考察 平木 俊也　新潟県立柏崎工業高等学校			10-1	【研究報文】トラブル未然防止への行動変容に向けて 鈴木 和幸　電気通信大学			
13:15～13:45	7-2	【事例報告】航空機電動化に対するIHIの取り組み 小林 敏和　㈱IHI			10-2	【研究報文】ブロック取り替え方策を用いた延長保証の有効性の検証 田村 信幸　法政大学			
13:45～14:00	準 備・休 憩								
会場	A会場								
14:00～16:00	【企画セッション（講演･パネル討論）】SiCデバイスのチャレンジとシステムのイノベーションの共創 講演1　「SiCデバイスの社会実装に向けて ～SiCウェハの現状と課題から～」　先﨑 純寿 講演2　「SiC素子を適用したN700S新幹線車両の駆動システムの開発」　佐藤 賢司 〈パネリスト〉　先﨑 純寿　国立研究開発法人産業技術総合研究所 先進パワーエレクトロニクス研究センター 上級主任研究員(兼務)研究戦略本部 知財･標準化推進部 連携主幹 佐藤 賢司　東海旅客鉄道株式会社 総合技術本部 技術開発部 理事 〈コーディネーター〉門田　靖　元 株式会社リコー 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 客員研究員 横川 慎二　電気通信大学 i-パワードエネルギー･システム研究センター（iPERC）教授								
16:00～16:15	【クロージング】弓削 哲史　防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授／RMSシンポジウム組織委員会副委員長								
16:15～17:00	【ネットワーキング】発表者 × 司会者 × 組織委員交流会（非公開）								

※ プログラムは都合により変更となる場合がございます。また登壇者･発表者の都合により講演･発表がキャンセルになる場合もあります。

基調講演　7月17日(木) 9:35~10:20

設計と運用・保全部門とのコラボによるサステナビリティ実現へ

田中 健次 氏　電気通信大学 産学官連携センター・特任教授／RMSシンポジウム組織委員会 委員長

田中 健次 氏

ききどころ 新たな技術革新が多様な使用環境を生む現代社会でのサステナビリティ実現に向け、これまで、設計者の立場から運用を考慮した高信頼性確保のための工夫について、そして、運用活動側での設計時には予測の難しい事象への経験を活かした適応的対応時の注意点などを示してきた。これらを現場で実践するためには、設計側と運用・保全側との連携、情報の伝達・共有が必要である。運用時の情報を設計部門にフィードバックする仕組みを構築することで、多様化社会に迅速に対応した高信頼度で安全な設計が実現でき、その仕組みの促進には部門間のコミュニケーションや運用者の心理的安全性を確保するなど人に着目した仕掛けが効果的であることを紹介する。

【講演者紹介】

京都大学 理学部数学科 卒業
東京工業大学 大学院総合理工学研究科システム科学専攻 博士課程修了、理学博士
1995年　電気通信大学 大学院情報システム学研究科 助教授
1999年　University of Manchester(UK)(Prof.J.Reason) 在外研究員
2004年　電気通信大学 大学院情報システム学研究科 教授
2023年　電気通信大学名誉教授／産学官連携センター 副センター長・特任教授

この間、米国ニューヨーク州立大学G. Klir 教授の下でシステム論を、英国マンチェスター大学 J. Reason教授の下で組織のリスクマネジメント論を研究。信頼性へのシステム論的アプローチや、行動心理を取り入れたリスクマネジメントなど、融合的な研究を推進し、プラント制御、医療安全、自動運転などの分野で人間-機械系の設計・運用に展開している。

[研究論文や著書(代表的なもの)]
- 『入門信頼性−技術者がはじめて学ぶ−』(日科技連出版, 2008年)
- 『システムの信頼性と安全性』(朝倉書店, 2014年)
- Systemic Approach to Reliability and Safety Management Incorporating Uncertainty, Systems ResearchⅡ, pp.241-259 (Springer, 2022)

[その他]　学会活動：日本品質管理学会(理事、監事)、医療の質・安全学会(理事)
IEEE (Reliability Society, Japan Chapter-Vice Chair 2003～2005)
表　　彰：1993年 日本プラントメンテナンス協会PM優秀論文賞(「創造活動による自律的適応保全の体系化」)
2002年 日本設備管理学会論文賞(「重複型システム分割による設備管理」)
2012年 第41回「信頼性・保全性シンポジウム」特別賞(「安全保証と危険回避の使い分けに関する一考察」)
2013年 日本信頼性学会2012年度優秀記事コラム賞(「新聞報道は事故をどう報じているか」)
2015年 日経品質管理文献賞(「システムの信頼性と安全性」)

特別講演　7月17日(木) 11:00~12:30

2035年に向けたデンソーの先端技術開発と社会課題への挑戦

伊藤 みほ 氏　株式会社デンソー 執行幹部 先端技術研究所長

伊藤 みほ 氏

ききどころ デンソーの先端技術研究所では、未来のモビリティ社会を実現するため、AI、量子技術、ヒューマンサイエンス、マテリアルなどの要素技術開発を進めています。VUCAの時代における研究開発として、2035年の将来社会像を描き、資源循環社会、自動化社会、人中心社会の実現に向け、イノベーションエコシステムを基本とした革新的な技術創出に向けた取り組みを中心にお話します。また、AI・デジタル技術の急激な進展に伴った、旧来の実験駆動型の研究開発スタイルから、デジタルトランスフォーメーション(DX)によるデータ駆動型の研究開発スタイルへの変革についてもご紹介します。

【講演者紹介】

奈良女子大学大学院理学研究科修了。
1994年に日本電装(現デンソー)入社し、一貫して機能材料に関する先行研究開発に携わる。2006年、自動車用排ガスセンサに関する量子論的研究で東北大学大学院工学研究科にて博士号取得。2007年以降、課長・室長・部長として研究マネジメントに軸足をシフトし、2021年より、先端技術研究所長として、マテリアル、AI、HMI等の先端技術研究全般を統括。現在、名古屋大学 未来社会創造機構 客員教授も務める。

[研究論文や著書(代表的なもの)]
- Methanethiol SAMs Induce Reconstruction and Formation of Cu+ on a Cu Catalyst under Electrochemical CO2 Reduction Go Iijima, Hitoshi Yamaguchi, Tomohiko Inomata, Hiroaki Yoto, Miho Ito and Hideki Masuda ACS Catalysis, 10, 15238 (2020)
- デンソー先端技術研究所におけるコア技術の進化とデジタルツインを活用した研究開発の取り組み 技術情報協会 研究開発リーダー 2023年10月号 P.32-36 伊藤みほ

[その他]　博士(工学)　2006年9月　東北大学大学院 工学研究科応用化学専攻博士課程修了

[社外活動]　名古屋大学 未来社会創造機構 客員教授
東京科学大学 デンソーモビリティ協働研究拠点 副拠点長
文部科学省 研究開発基盤部会 委員
文部科学省 ナノテクノロジー・材料科学技術委員会 委員
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 領域アドバイザリーボード委員(材料・化学領域)
公益社団法人 日本工学アカデミー 理事　など

企画セッション　7月18日(金) 14:00〜16:00

SiCデバイスのチャレンジとシステムのイノベーションの共創

企画概要 デバイス開発側の研究者の方に、パワーデバイスの開発の歴史とSiCの研究の起源、歴史、大きかった課題と克服技術、残課題、更に確固たるデバイスにするために国際標準化への働きかけなどをお話いただきます。システム開発側の技術者の方に、システムの開発の歴史、システムの中でパワーデバイスが活躍している部分の紹介、占める重要性、求めてきた特性、まだまだ改善していただきたい点、更に現在SiCに対する期待と更なる要望などをお話しいただきます。その上で、聴衆も参加してパネルディスカッションを実施いたします。そのためデバイス開発側の研究者には、システム開発側にも理解でき、システム開発側の技術者には、デバイス開発側にも理解できるような講演を行っていただき、その議論の中でシステム開発者とデバイス開発者の溝をなくし,日本がまだまだ誇れるこの分野をAll Japanで推進できるための一助にしたい。

先﨑 純寿 氏

佐藤 賢司 氏

【パネリスト】
講演1『SiCデバイスの社会実装に向けて ～SiCウェハの現状と課題から～』
先﨑　純寿 氏　国立研究開発法人産業技術総合研究所 先進パワーエレクトロニクス研究センター 上級主任研究員（兼務）研究戦略本部 知財・標準化推進部 連携主幹

講演2『SiC素子を適用したN700S新幹線車両の駆動システムの開発』
佐藤　賢司 氏　東海旅客鉄道株式会社 総合技術本部 技術開発部 理事

【コーディネーター】
門田　　靖 氏　元 株式会社リコー 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 客員研究員
横川　慎二 氏　電気通信大学 i-パワードエネルギー・システム研究センター（iPERC）教授

門田 靖 氏

横川 慎二 氏

チュートリアルセッション　講演1 7月17日(木) 13:30〜14:30 ／ 講演2 7月18日(金) 9:30〜10:30

スタッフから技術者、マネージャーまで「いまさら聞けない、知っておきたい」「なんとなく知っているけれど正しく知らない」をズバリ解決！ 本シンポジウムだから実現できたスペシャルな2講演！

講演1

初めて学ぶ信頼性 ーその要点と手法ー

島川 邦幸 氏 元 富士ゼロックス株式会社

製品開発段階をすり抜けた故障は、時間が経って思わぬ時に発生し、お客様の不満や会社の大きな損失に繋がります。これを未然に防ぐことが信頼性の狙いです。では信頼性を高める（故障を減らし寿命を延ばす）にはどうしたらいいでしょうか。そのために先人たちの知恵で育まれた種々の手法があります。本講演では信頼性の要点と手法を、信頼性を初めて学ぶ方にも理解していただけるよう、できるだけわかりやすく説明します。モノづくりに携わるすべての人が信頼性の基本を理解することで、社内のコミュニケーションを密にし、全体で信頼性改善されることを期待します。

講演2

SiCパワーデバイスの基礎と信頼性

木村 忠正 氏 電気通信大学名誉教授

ワイドバンドギャップSiCパワーデバイスは、高耐圧、高電力、低損失、小型化、高温動作等の優れた特性により、様々な電力機器への採用が進められています。SiO_2酸化膜が絶縁膜として利用でき、基本構造、故障モード及び物理、寿命評価に関してSiパワーデバイスと多くの共通点があります。
一方、SiC結晶特有の積層欠陥、転位の生成、また、ゲート酸化膜/SiC界面欠陥に起因する閾値電圧シフトなど、新たに取り組むべき信頼性課題がまだ多く残されています。
本講演では、SiCパワーデバイスの基本、デバイス構造、SiC結晶の劣化特性、ゲート酸化膜/SiC界面欠陥に起因する特性劣化の故障物理と信頼性評価について文献等における研究発表を基に解説いたします。

表彰　7月17日(木) 10:25〜10:40

2024年度（第53回）RMS優秀報文（事例）賞、奨励報文（発表）賞、学術／技術貢献賞 表彰

賞状・副賞の授与　**田中 健次** 氏　電気通信大学 産学官連携センター・特任教授／RMSシンポジウム組織委員会委員長
選考理由について　**弓削 哲史** 氏　防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授／RMSシンポジウム報文小委員会委員長

発表報文（事例報告）の中から参加者の投票をもとに選出され、①創意性、②実用性、③完結性、④利用価値、⑤普遍性、⑥発表方法、⑦発表データの利用度の各項で評価されます。2024年度の受賞報文・事例報告は次のとおりです。

受賞（発表セッション順、所属は受賞当時、敬称略）

優秀報文賞（Excellent Paper Award）
- Bayesian Active Learningを用いたリジッドアクスルサスペンションのセットベース設計法　白石 英樹 氏(トヨタ自動車㈱)

優秀事例賞（Best Application Award）
- 市場環境下の車載電子部品のはんだ熱疲労予測法の適正化　西森 久雄 氏 他(トヨタ自動車㈱)

奨励報文賞（Incentive Paper Award）
- 有限要素法解析を用いた電子機器の耐振性評価手法　中道 徳馬 氏(㈱安川電機)

奨励発表賞（Incentive Application Award）
- ツース脱落／転石検知支援システムによるお客さまの現場の生産性・安全性向上　江本 遼平 氏(㈱小松製作所)

▶**各賞受賞者決定紹介URL**: https://www.juse.jp/rms/53/award/

「大口参加申込」をご利用ください。

社員教育にも最適です。

- 組織の信頼性・保全性・安全性の意識向上を図る
- 技術者、研究者の技術教育として活用する

お申込みは 6/20㈮13:00まで

1. 参加費440,000円(税込)で、1社から200名様まで参加可能な制度です。
2. シンポジウム終了後、一定期間内の「アーカイブ配信」で再聴講できます。
3. 請求書は、部門ごとに分けて発行することもできます。
   ※ 請求書送付先は一ヵ所とさせていただきます。「通信欄」に以下のように記載してください。
   例)品質保証部 220,000円(税込)　人事部 220,000円(税込)
4. 同一法人格内であれば、例えば本社だけでなく国内・海外拠点の社員の方も上限人数以内であれば、上記定額料金でご参加いただけます。
5. 「聴きたい講演だけ」、「聴講可能な時間帯だけ」の一部の参加もOKです。
6. 圧倒的なコストパフォーマンス! まとまった人数で参加できるので、一人当たりの教育コストをグッとおさえられます。
   ※ 11名のご参加費用で、おトクにご利用いただけます　例)通常一般参加費41,800円を11名参加の場合…合計459,800円

●参加申込方法

- 通常の「申込フォーム」からお手続きいただけます。参加区分で「大口参加」を選択してください。申込手続き後、自動返信でメールが送付されますが、日科技連から、個別に改めてご連絡を差し上げます。誠に恐れ入りますが、ご連絡をお待ちください。

お申し込みから参加までの流れ

4月中旬 ～7月10日㈭ 13:00まで

RMSシンポジウムWebサイトで受付しています。
➡ https://www.juse.jp/rms/

※当シンポジウムWebサイト掲載の専用サイトで当日視聴で使用する端末(PC推奨)で事前テストを実施の上、お申込みください。
※お申込後、日科技連・受付担当から自動返信メール(受付完了通知／開催通知)が届きます。
※自動返信メールが届かない場合は、受付担当(regist@juse.or.jp)までご連絡ください。

7月上旬～

日科技連・受付担当から電子請求書発行(PDFダウンロード形式)、連絡担当者／参加者にご送付します。

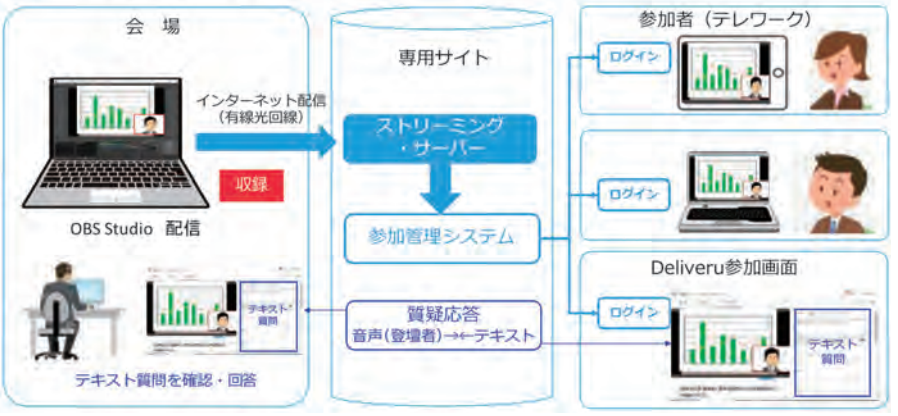
開催3営業日前 7月14日㈪予定

参加者の方へ
視聴URL、ID、パスワードをメールでご送付します。

7月17日㈭～7月18日㈮ シンポジウム当日(ライブ配信)

ご質問はチャットでお受けし、口頭で回答する予定です。

・無観客で、登壇者自身がパソコンで資料をめくりながら講演・発表を行い、同時にライブ配信する。
・参加者からの質問はテキストで受付、音声で回答する。



参加のおすすめ

年に一度の信頼性・保全性・安全性に関するビッグイベント!
—“ものづくり日本”を支える、産・学の最新事例が一堂に集結します—

1971年に開始した当シンポジウムは、いろいろな分野の信頼性・保全性・安全性に携わるエンジニア、マネージャー、研究者の方々にご参加いただき、実践的な技術・経験・研究成果を共有し、意見交換・討議などを行うとともに、基調講演、特別講演、特別企画セッションなど、多彩な人的交流と情報交換の場を提供することを主眼として開催しています。貴社の信頼性・保全性・安全性活動をより一層発展させるためにも、ぜひこの場をご活用くださいますようお願いいたします。

信頼性・保全性・安全性シンポジウム委員会 組織委員一同

信頼性・保全性・安全性シンポジウム 組織委員会

五十音順、敬称略

(2025年4月2日現在)

■委員長: 田中 健次 電気通信大学 産学官連携センター・特任教授
■副委員長: 弓削 哲史 防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 教授
久保 秀之 ユーロフィンFQL㈱ 品質技術事業部 評価・解析グループ アソシエイト
■委員: 井内 秀明 NECプラットフォームズ㈱ CS品質推進部門 品質推進統括部 品質推進グループ ディレクター
伊藤 誠 筑波大学 システム情報系 教授
大田 暢彦 ㈱安川電機 技術開発本部 信頼性技術部 シニアスタッフ
岡 利春 ㈱IHI 空領域 テクノロジートランスフォーメーション推進部 主査
岡田 孝雄 宇宙航空研究開発機構 航空技術部門航空安全イノベーションハブ 主任研究開発員
門田 靖 元 ㈱リコー元 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 客員研究員
黒木 英昭 全日本空輸㈱ 顧問
佐伯 光章 ルネサスエレクトロニクス㈱ 品質保証グループ 品質保証統括部 FAラボラトリ 課長
佐々木成実 トヨタ自動車㈱ カスタマーファースト推進本部 TQM推進部 データ人財開発室 戦略グループ 主幹
角谷 幹彦 ㈱アイシングループ品質本部 TQM推進部 業務品質改善室 データ活用推進グループ グループ長
田村 信幸 法政大学 理工学部 経営システム工学科 准教授
土井下健治 コマツ 開発本部 デジタルイノベーション開発センタ デジタル第一開発グループ チームマネジャ
長塚 豪己 中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 教授
藤本 直伸 内藤電誠工業㈱ 評価解析事業部 技術顧問
宮本 秀範 ソニーセミコンダクタソリューションズ㈱ 品質・環境部門 シニアリライアビリティエキスパート
横川 慎二 電気通信大学 i-パワードエネルギー・システム研究センター(iPERC)教授

■顧問: 堀籠 教夫 東京海洋大学名誉教授
木村 忠正 電気通信大学名誉教授
佐藤 吉信 ナブテスコ㈱ 嘱託
鈴木 和幸 電気通信大学名誉教授・特任教授
益田 昭彦 信頼性七つ道具(R7)実践工房 代表
向殿 政男 明治大学名誉教授
宮村 鐵夫 中央大学名誉教授

後 援:日本信頼性学会
協 賛:公益社団法人応用物理学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般財団法人日本電子部品信頼性センター、一般社団法人日本品質管理学会、IEEE Reliability Society Japan Joint Chapter、ナノテスティング学会、公益社団法人高分子学会
(順不同)

参加要領

●参加費 〈大口参加申込は6/20㈮13:00申込分まで〉

●税込・1名様分(1IDにつき1名様が視聴可・複数名での視聴はできません)

一 般	41,800円
日科技連賛助会員／後援・協賛学協会会員	39,600円
発表者(本人のみ)／学生	5,500円
共同執筆者(発表1件につき1名まで)	19,800円
2025年度 RQ研究会 参加者	19,800円
「信頼性技術者」登録者	19,800円

●税込・1社※1口5名様まで(1IDにつき1名様視聴可、5ID配付)

小口参加 一般・日科技連賛助会員ともに	125,400円

●税込・1社※あたり200名様まで(1IDで200名様まで複数名での視聴可)

大口参加 一般・日科技連賛助会員ともに	440,000円

※適用範囲は同一法人格、かつ同一窓口から一括でのお申込みの場合に限ります。
200名を超えての視聴のご要望がございましたら、お気軽にお問合せください。

●参加費支払い方法

請求書記載の指定口座へ、請求書発行後2ヵ月以内にお振込みください(請求書は、7月上旬から電子請求書(PDFダウンロード形式)送付開始予定)。

●お申込みのキャンセルについて

正式な参加登録後、お客様のご都合でお申込をキャンセルされる場合には、大変恐縮ながら以下の通りキャンセル料が発生いたします。
シンポジウム開催日(7/17) の
- 7営業日前～1営業日前17:00までのキャンセル …… 参加費の 50%
- 1営業日前17:00以降のキャンセル
  または事前のご連絡がなかった場合 …… 参加費の 100%

●内容に関するお問い合わせ先

一般財団法人 日本科学技術連盟「54RMS」担当
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1
TEL:03-5378-9850
E-mail:rms-sympo@juse.or.jp

●申込みに関するお問い合わせ先

一般財団法人 日本科学技術連盟 セミナー受付
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1
TEL:03-5378-1222
E-mail:regist@juse.or.jp

(ご注意)

- 参加者以外、資料の配付はいたしません。また、資料のみの頒布はいたしませんので、ご了承ください。
- イベント終了後、本シンポジウム参加者限定で、登壇者の許可が得られた講演・発表等について、公開～1週間程度アーカイブ公開いたします。
- 原則2日間通してのご参加をお願いいたします。参加費は、1日のみのご参加でも全額申し受けます。また、当日欠席されてもご返金いたしかねますのでご了承ください。
- 資料ダウンロードサービス開始(7月上旬予定)以降のキャンセル(ご返金)は致しかねますので代わりの方のご参加をお願いいたします。
- シンポジウムの日程・開始／終了時刻・プログラム等は、都合により変更する場合があります。また、諸般の事業によりシンポジウムの開催を中止することがありますので、予めご了承ください。
- 「ネットワーキング」は発表者限定の非公開イベントです。オンライン配信はございません。